

第三期 七月ヨリ九月マテ

第四期 十月ヨリ十二月マテ

- 二 零號常用料ハ零號常用ヲ約定スル郵便電信局又ハ電信局ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ
但二等電信局及三等郵便電信局ニハ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ
- 三 一人ニシテ二種以上ニ零號ヲ常用スルトキハ一種毎ニ零號常用料ヲ納付スヘシ
- 四 同一ノ零號ヲ内國電報及外國電報ニ通シ用フルトモ各別ニ零號常用料ヲ納ムルニ及ハス
- 五 第一項ニ掲クル一期ノ中途ヨリ零號常用ヲ約定スルトキハ年額金ノ月割ヲ以テ約定ノ月ヨリ其期末月マテノ月數ニ應シテ零號常用料ヲ前納スヘシ
- 六 常用スル零號無用ニ屬シ取消ヲ請求スルトモ前納シタル零號常用料ヲ還付セズ
但取消ヲ請求シタル次期以下ニ屬スル零號常用料前納アルトキハ其次期以下ノ分ヲ還付スヘシ
- 七 零號常用料ヲ還付スルトキハ前ニ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨ニテ還付シ郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ郵便切手ニテ還付スヘシ

○萬國電信條約書ニ據リ發送スル電報料ハ郵便切手ヲ貼附シテ納メシム 廿三年三月十四日 遞信省令第一號
萬國電信條約書ニ據リ二等電信局三等郵便電信局ニ依頼シテ發送スル電報料ハ本年三月二十八日以降郵便切手ヲ其電報紙面ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

○海底電信線保護萬國聯合條約罰則

十八年七月十七日 布告第十八號

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

- 第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第百六十四條ノ例ニ照シテ處斷シ其未タ遂ケサルモノハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷ス
- 第二條 疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)ニ二十四時以内ニ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ依テ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四條 條約第五條第一項第二項第三項及第六條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ
- 第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要求スルトキ之ヲ示スコトヲ拒ミタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第百三十九條ニ照シテ處斷ス

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

○水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者處分方十六年二月十日
布告第五號

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○電話交換規則 二十三年四月十九日
逓信省令第七號

電話交換規則左ノ通之ヲ定ム

電話交換規則

第一條 遞信省ハ必要ト認ムル市町ニ電話交換局及電話所ヲ置キ電話交換加入者ノ使用ニ供スル電話線及電話所ノ電話線ヲ電話交換局ニ湊合シ又甲乙地間ニ電話線ヲ架設シテ電話交換ノ媒介ヲ爲スヘシ但加入者ノ請求ニ依リ其市町接近ノ地ニ電話線ヲ延長スルコトアルヘシ

第二條 加入者ノ使用ニ供スル電話線及電話器ノ設置並其維持ハ遞信省之ヲ負擔スルモノトス但加入者ノ過失ニ由リ毀損シタルトキハ遞信省之ヲ修補シ其費用ハ加入者ヲシテ辨償セシムヘシ

第三條 加入者ハ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得

一 市町ノ内外ヲ問ハス晝夜ノ別ナク加入者相互直接ノ電話通信

二 市町ノ内外ヲ問ハス規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到ルモノト直接ノ電話通信

三 規定ノ時間ニ於テ和文電報送受ノ爲メ郵便電信局又ハ電信局ト直接ノ電話通信(三十一年十一月二十日逓信省令
第二十二號ヲ以テ改正)

第四條 何人ト雖規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到リ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得但其時間ハ遞信省ニ於テ之ヲ定メ時々廣告スヘシ

一 加入者ト直接ノ電話通信

二 他ノ電話所ニ到ル者ト直接ノ電話通信

第五條 左ノ電話通信ハ總テ五分時間迄ヲ以テ一通信時トス

一 甲乙市町間相互直接ノ電話通信

二 電話所ニ到ル者相互及電話所ニ到ル者ト加入者ト直接ノ電話通信

第六條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ屬スル電話器ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ自家所用外ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 電話交換局ハ時々加入者ノ住居ニ技術員ヲ派遣シテ電話器故障ノ有無ヲ點檢セシムヘシ

第八條 加入者ハ其使用ニ屬スル電話線又ハ電話器ニ障害アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ電話交換局ニ報告スヘシ

第九條 加入者ノ加入約束期限ハ其使用ニ屬スル電話線及電話器ヲ交付シタル日ヨリ起算

シ滿二箇年トシ爾後ノ繼續ハ滿一箇年以上トス(一箇年未滿ノ端數ヲ加フルヲ得ス)但左ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ之ヲ交付シタルトキハ尙ホ該期ノ末日ニ至ルマテノ日數ヲ加ヘタルモノヲ以テ約定期限ノ一箇年ト看做スヘシ

- 第一期 一月ヨリ三月マテ
- 第二期 四月ヨリ六月マテ
- 第三期 七月ヨリ九月マテ
- 第四期 十月ヨリ十二月マテ

第十條 加入者其加入約束ノ繼續ヲ望マサルトキハ約束滿期三箇月以前ニ其旨ヲ電話交換局ニ通知スヘシ若シ此通知ヲナサハルトキハ更ニ一箇年繼續スルモノト看做スヘシ

第十一條 加入者ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル電話線及電話器ノ使用料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ

但特ニ納期ヲ定ムル者ハ此限ニアラス

- 一 使用料ハ第九條ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ年額ヲ四分シ毎年一月四月七月十月ノ四回ニ通貨ヲ以テ其期ノ分ヲ電話交換局ニ納付スヘシ
 - 二 一期ノ中途ニ於テ加入シタルトキハ其期ノ分ハ年額金ノ日割ヲ以テ電話線及電話器ノ交附ヲ受ケタル日ヨリ一週日以内ニ通貨ヲ以テ電話交換局ニ納付スヘシ
- 第十二條 加入者納期ニ至リ其使用料ヲ納付セサルトキハ其電話通信ヲ停止スヘシ

第十三條 電話交換局アル市町外ニ電話器ヲ設置スルモノ及一人ニシテ同一ノ家屋又ハ地

所内ニ於テ同一ノ回線中ニ二箇以上ノ電話器又ハ電話器ノ外ニ電鈴ヲ設置スルモノハ第十一條使用料ノ外左ノ料金を增加スヘシ(二十三年十一月二十日遞信省令第二十二號ヲ以テ改正)

- 一 市町外ノ地ニ電話器ヲ設置スルトキハ其市町ノ境界ヲ去ル三町迄毎ニ一箇年料金參圓
- 二 二箇以上ノ電話器ヲ設置スルトキハ一箇ヲ除キ其他一箇毎ニ一箇年料金八圓
- 三 別ニ電鈴ヲ設置スルトキハ一箇毎ニ一箇年料金八拾錢

第十四條 加入者ニ於テ其使用ニ屬スル電話線ヲ他ニ轉架シ若クハ其電話器ヲ同一ノ家屋又ハ地所内ニ轉置センコトヲ望ムトキハ之ヲ電話交換局ニ請求スヘシ其轉架ニ要スル費用ハ(線條柱木其他器械物品ノ代價ヲ除ク)請求者ノ支辨トス但電話線ノ轉架ニ依リ使用料額ニ異動ヲ生スルトキハ轉架工事竣工ノ日ヨリ其料額ヲ改定スヘシ

第十五條 電話所ニ到リテ電話通信ヲ爲スモノ及加入者ニシテ他ノ市町ノ加入者又ハ其電話所ニ到ル者ト電話通信ヲナス者ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル電話料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ但加入者ニシテ其市町内ノ電話所ニ到ルモノト電話通信ヲナス場合ハ電話料ヲ支拂フヲ要セス

- 一 電話所ニ到ルモノハ郵便切手ヲ以テ電話料ヲ其電話所ニ納付スヘシ
- 二 加入者ハ通貨ヲ以テ其月分ノ電話料ヲ翌月十日迄ニ電話交換局ニ納付スヘシ(二十四年一月二十四日遞信省令第二十二號ヲ以テ本項改正ス)

第十六條 加入者ニシテ第三條第三項ニ據リ電報ヲ各地ニ發送スル爲メ郵便電信局又ハ電信局ニ電話通信ヲシタルトキハ其月分ノ電報料ヲ通貨ヲ以テ翌月十日迄ニ其郵便電信局又ハ電信局ニ納付スヘシ(二十四年一月二十四日逓信省令第一號ヲ以テ本條改正ス)

第十七條 加入者ノ使用ニ屬スル電話線又ハ電話器ニ障害ヲ生シ三日以上電話通信ヲ休止シタルトキハ第四日ヨリ電話通信休止ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ使用料ヲ還付スヘシ但第二條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十八條 凡ソ加入者タランコトヲ望ムモノハ左ノ書式ノ申込書ヲ差出スヘシ
但他人所有ノ家屋又ハ地所内ニ電話器ノ設置ヲ要スルモノハ其所有者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

(書式)

電話交換加入者申込書

私義電話交換規則ニ遵ヒ何地電話交換ニ加入致度仍テ電話器設置ノ場所及其負數ヲ左ニ記載シ此段申込候也

住所職業

氏名印

年月日

逓信省工務局

御中

何市何區何町何番地

何番

一 場所

二 電話器

○電話交換使用料及電話料 二十三年四月十九日

電話交換規則第十一條ニ掲グル使用料ハ東京市内ニ於テハ一箇所ニ付年額四拾圓同則第十五條ニ掲グル電話料ハ東京市内ニ於テハ一人ニ付一通信時五錢ト定ム(二十三年五月十九日逓信省令第十號ヲ以テ五十四ノ五ヲ四ト改ム)

○横濱市内電話使用料及電話料 二十三年六月二十四日

電話交換規則第十一條ニ掲グル使用料ハ横濱市内ニ於テハ一箇所ニ付年額三十五圓同則第十五條ニ掲グル電話料ハ横濱市内ニ於テハ一人ニ付一通信時五錢ト定ム

○東京横濱間電話料 二十三年六月二十四日

電話交換規則第十五條ニ掲グル電話料ハ東京横濱間ハ一人ニ付一通信時金十五錢ト定ム

但此電話料ハ通話請求者之ヲ納付スヘシ

沿革要領

明治六年第三百號布告ヲ以テ大日本政府電信取扱規則ヲ定ム○七年七月工部省第十八號布達ヲ以テ電信私線ヲ官設ノ線ニ接續スルヲ許ス○同年八月工部省第廿一號布達ヲ以テ電信私線規則ヲ定ム○同年九月第九十八號布告ヲ以テ日本帝國電信條例ヲ定ム○九年三月工部省第四號布達ヲ以テ電報追送音信配達方法ヲ定ム○十二年五月工部省第九號布達ヲ以テ六年第三百號布告電信取扱規則ヲ改正ス○同年十二月第四十五號ヲ以テ露西亞國聖彼得堡ニ於テ哉國電信規約ニ加入シ條約書捺印交換ノ旨ヲ布告ス○十八年五月第八號布告ヲ以テ電信條例ヲ改定シ七年第九十八號布告十二年工部省第九號布達其他本條例ニ抵觸スル從前ノ布告布達ヲ廢ス○十九年四月軍用電信ニ係ル妨害者處分方ヲ定ム○二十一年二月勅令第六號ヲ以テ電信料及手数料ハ當分ノ内郵便切手ヲ以テ納ムルコトヲ得セシム○二十三年四月逓信省令第七號ヲ以テ電話交換規則ヲ定ム

第九類

第一章 年曆 神社神官 祭典

○年號改元ノ詔勅

元年九月八日
布告

今般御即位御大禮被爲濟先例之通被爲改年號候就而ハ是迄吉凶之象兆ニ隨ヒ屢改號有之候得共自今御一代一號ニ被定候依之改慶應四年可爲明治元年旨被仰出候事

詔書

詔體太乙而登位膺景命以改元洵聖代之典型而萬世之標準也朕雖否德幸賴祖宗之靈祇承鴻緒躬親萬機之政乃改元欲與海內億兆更始一新其改慶應四年爲明治元年自今以後革易舊制一世一元以爲永式主者施行

戊辰九月八日

○改曆ノ詔書

五年十一月九日
布告第三十七號

今般改曆之儀別紙詔書ノ通被仰出候條此旨相達候事

(別紙詔書)

朕惟フニ我邦通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ躔度ニ合ス故ニ二三年間必ス閏月ヲ置カサルヲ得ス置閏ノ前後時ニ季候ノ早晚アリ終ニ推歩ノ差ヲ生スルニ至ル殊ニ中下段ニ掲ル所ノ如キハ率ニ妄誕無稽ニ屬シ人知ノ開達ヲ妨ルモノ少シトセス蓋シ太陽曆ハ

太陽ノ躡度ニ從テ月ヲ立ツ日子多少ノ異アリト雖モ季候早晚ノ變ナク四歲毎ニ一日ノ閏ヲ置キ七千年ノ後僅ニ一日ノ差ヲ生スルニ過キス之ヲ太陰曆ニ比スレハ最モ精密ニシテ其便不便モ固リ論ヲ俟サルナリ依テ自今舊曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ヒ天下永世之ヲ遵行セシメン百官有司其レ斯旨ヲ體セヨ

一今般太陰曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候事

但新曆鏤板出來次第頒布候事

一 一ヶ年三百六十五日十二ヶ月ニ分チ四年毎ニ一日ノ閏ヲ置候事

一 時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分チ候處今後改テ時辰儀時刻晝夜平分二十四時ニ定メ子刻ヨリ午刻迄ヲ十二時ニ分チ午前幾時ト稱シ午刻ヨリ子刻迄ヲ十二時ニ分チ午

後幾時ト稱候事

一時鐘ノ儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱來候處以後何時ト可稱事

一 諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行可致事

(新舊曆日比較及時刻表ハ畧之)

○本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム十九年七月十二日 勅令第五十一號

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十一號

一 英國グリニッチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス

一 經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス

一 明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

○天象觀測及曆書調製ヲ文部大臣ニ管理セシム二十一年十二月五日 勅令第八十一號

朕天象觀測及曆書調製ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十一號

天象觀測及曆書調製ハ自今文部大臣ヲシテ之ヲ管理セシム

○頒曆及客曆出版十五年四月廿六日 太政官布達第八號

本曆并客曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ

一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年十月内務省甲第三拾九號布達ハ取消ス

○一枚摺略曆出版規定二十三年十月三十一日 文部省令第二號

明治十五年四月太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ

第九類 第一章 年曆

- 一枚摺略曆ハ左ニ列記スル事項ニ限リ記載スルモノトス
- 一年號及紀元ノ年數千支
- 一月ノ一日
- 一日月食其時間
- 一大祭祝日壇神社例祭大祓
- 一日曜表甲子表庚申表己巳表
- 一二十四節氣及雜節
- 一新月滿月
- 一前各項ニ相當スル陰曆日干支及陰曆ノ朔日干支並之ニ相當スル陽曆日
- 以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但前各項規定ノ外本曆略本曆ニ掲載セサル事項ヲ記入スルハ此限ニ在ラス

沿革要領

明治元年九月八日布告ヲ以テ年號ヲ改メ自今一聖一元ト爲ス○明治三年二月十日天文曆道ヲ大學ノ管轄ト爲ス○同年四月廿二日布告ヲ以テ頒曆授時ノ儀ハ至重ノ典章ニ候間自今弘曆者ノ外取扱ノ儀嚴禁仰出サル○四年七月十八日布告ヲ以テ大學ヲ廢シ文部省ヲ置ク○同年八月七日達ヲ以テ文部省職制ヲ定ム○五年十一月第三百六十一號布告ヲ以テ來明治六年ニ限リ各地方ニ於テ略曆版刻販賣ヲ許シ太陽曆ヲ標準トシ不替ノ說ヲ加フルヲ禁シ且管轄ノ許可ヲ受ケシム○同月第三百六十二號ヲ以テ第三百六十一號布告ニ據リ略曆出版出願ノ者アルハ太陽曆ニ照シ檢査ノ上許可セシムヘキ旨ヲ府縣ヘ達ス○六年一月第二十號ヲ以テ五年第三百六十一號第三百六十二號布告ノ畧曆トハ柱曆ノ類ニシテ一枚摺ノ品ニ有之旨ヲ府縣ヘ達ス○九年二月廿四日達ヲ以テ文部省管理編曆ノ事務ヲ內務省ニ屬ス○同年十月內務省甲第三十九號布達ヲ以テ來明治十年曆ヨリ本曆曆共印紙ヲ貼用セシメ畧曆出版ノ儀ハ府縣廳ヲ經テ內務

省へ出願許可ヲ受ケシメ無印紙ノ曆ハ賣買ヲ禁ス○十五年四月第八號布達ヲ以テ九年內務省甲第三十九號布達ヲ廢シ本曆並略本曆ハ十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシメ一枚摺畧曆ハ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルヲ得セシム○十九年七月勅令第五十一號ヲ以テ本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム○二十一年十二月勅令第八十一號ヲ以テ天象觀測及曆書編製ヲ文部大臣ニ管轄セシム

神社規則ヲ定ム

四年五月十四日
布告

官社以下定額及神官職員規則等別紙之通被仰出候尤府藩縣社郷社ノ分ハ先達テ差出候明細書ヲ以テ取調區別ノ上追テ神祇官ヨリ差圖ニ可及候條其節萬端處置ノ儀同官ヘ可相回事

一神官從來ノ叙爵總テ被止候事

一官社以下府藩縣社郷社神官總テ其地方實屬支配タルヘク本籍ノ儀ハ士族民ノ内適宜ヲ以テ編籍可致事

別紙

官社(社名ハ改稱及ヒ加除アリ之ヲ訂正シテ現時ノ分ヲ載ス)

○官幣大社

賀茂別雷神社	山城國	平野神社	山城國
賀茂御祖神社	同上	稻荷神社	同上
男山八幡宮	同上	大神神社	大和國
松尾神社	同上	大和神社	同上
第九類 第一章 神社神官			千百三十九

石上神宮 大和國
春日神社 同
廣瀬神社 同
龍田神社 同
丹生川上神社 同
枚岡神社 河内國
大鳥神社 和泉國
住吉神社 攝津國
生國魂神社 同
廣田神社 同
氷川神社 武藏國
安房神社 安房國
香取神社 下總國
○官幣中社
八阪神社 山城國
鹿兒島神宮 大隅國
白峰宮 山城國

鹿島神宮 常陸國
三島神社 伊豆國
熱田神宮 尾張國
日吉神社 近江國
日前神社 紀伊國
國懸神社 同
出雲大社 出雲國
宇佐神宮 大前國
霧島神宮 大隅國
伊弉諾神社 淡路國
香椎宮 筑前國
宮崎宮 日向國

常陸國 伊豆國 尾張國 近江國 紀伊國 同
出雲國 大前國 大隅國 淡路國 筑前國 日向國
長門國 攝津國 相摸國

千百四十

井伊谷宮 遠江國
八代宮 肥後國
梅宮神社 山城國
貴船神社 同
大原野神社 同
吉田神社 同
日枝神社 同
北野神社 武藏國
以上大中五十四社所祭爲官幣社(現時ノ數ヲ載ス)

月山神社 羽前國
宗像神社 筑前國
金鑽神社 武藏國
建部神社 近江國
多賀神社 同
竈山神社 同
菅崎宮 筑前國

羽前國 筑前國 武藏國 近江國 同 同
紀伊國 筑前國

○官幣小社
札幌神社 石狩國
鶴戶神宮 日向國
太宰府神社 筑前國
○別格官幣社
談山神社 大和國
護王神社 山城國
小御門神社 下總國

生田神社 攝津國
長田神社 同
大國魂神社 武藏國

肥後國 攝津國 同
肥後國 攝津國 伯耆國

第九類 第一章 神社神官

千百四十一

阿部野神社
藤島神社
結城神社
豐榮神社
建勳神社
豐國神社

○國幣大社无
○國幣中社

敢國神社
淺間神社
淺間神社
寒川神社
鶴岡八幡宮
玉前神社
南宮神社
諏訪神社
貫前神社

攝津國
越前國
伊勢國
周防國
山城國
同上

伊賀國
駿河國
甲斐國
相模國
同上
上總國
美濃國
信濃國
上野國

東照宮
常磐神社
照國神社
靖國神社
靈山神社
梨木神社

二荒山神社
二荒山神社
都々古別神社
都々古別神社
伊佐須美神社
志波彦神社
鹽竈神社
大物忌神社
若狹彦神社

下野國
常陸國
薩摩國
武藏國
岩代國
山城國

下野國
同磐城國
同磐城國
同磐城國
陸前國
同陸前國
羽後國
若狹國

氣比神社
氣多神社
射水神社
彌彥神社
出雲神社
籠神社
出石神社
宇倍神社
熊野神社
水若酢神社
海神社
中山神社
安仁神社
吉備津神社
駿島神社
住吉神社
熊野坐神社

第九類 第一章 神社神官

越前國
能登國
越中國
越後國
丹波國
丹後國
但馬國
因幡國
出雲國
隱岐國
播磨國
美作國
備前國
備中國
安藝國
長門國
紀伊國

忌部神社
大麻比古神社
田村神社
大山祇神社
土佐神社
高良神社
西塞多神社
田島神社
阿蘇神社
住吉神社
海神社
事比羅宮
大洗磯前神社
酒列磯前神社
美保神社
伊太郎會神社
新田神社

阿波國
同讚岐國
讚岐國
伊豫國
土佐國
筑後國
豐後國
肥前國
肥後國
壹岐國
對馬國
讚岐國
常陸國
同常陸國
出雲國
紀伊國
薩摩國

○國幣小社

砥鹿神社
小國神社
水無神社
駒形神社
岩木山神社
出羽神社
湯殿山神社
右四王神社
白山比咩神社
度津神社
大神山神社

參河國
遠江國
飛騨國
陸中國
陸奥國
羽前國
同 上
羽後國
加賀國
佐渡國
伯耆國

日御崎神社
物部神社
沼名前神社
玉祖神社
英彦山神社
都農神社
枚聞神社
函館八幡宮
真清田神社
伊和神社

出雲國
石見國
備後國
周防國
豐前國
日向國
薩摩國
渡島國
尾張國
播磨國

以上中小社九十七社地方官所祭爲國幣社(現時ノ數ヲ載ス)

官幣大社社名略ス

官幣中社同上

以上大中三十五社(神祇官)所祭爲官幣社

官幣小社无

國幣大社无

國幣中社社名略ス

國幣小社(同上)

以上中小社六十二社地方官所祭爲國幣社

右官幣國幣社通計百五十一社(神祇官)管之(同上)

諸社

府社

〔藩社〕

縣社

府藩縣崇敬之社

鄉社

鄉邑産土神

右地方官管之

官幣國幣官社以外府藩縣社鄉社二等ヲ以テ天下諸社ノ等差トス右官社定額ノ外式内及國史見在ノ諸社期年検査ヲ歴テ更ニ官社ニ列スヘシ但四時祭官幣ノ列ハ方今(神祇官)ニ請シテ祭之

職員(神宮官國幣社ノ分ハ改正ニ附除ク)

第九類 第一章 神社神官

府社
〔藩社〕
縣社
祠官
祠官
祠掌
鄉社
祠官
祠官
祠掌

規則〔改正ニ付除ク〕

○神社改正規則ヲ更定ス

六年十二月二十五日
布告第四百二十一號〔便〕府縣

去ル明治四年辛未五月中相違候神社改正規則今般左之通更定候條此旨相心得神官へ布告スヘキ事

規則

- 第一 (二十年閣令第四號ニ依リ本條但書トモ消滅ス)
- 第二 (二十年內務省訓令第十八號ニ依リ消滅ス)
- 第三 同上ニ社ノ私祭及土地或ハ人民ニ係ル事件ハ其地方官ノ指揮ヲ受クルコト勿論タルヘシ

- 第四 (七年第十二號布告ヲ以テ本條ヲ改正シ又二十年內務省訓令第十八號ニ依リ消滅ス)
- 第五 府縣社以下ハ地方官ノ管轄ニ屬スト雖其社格等差ヲ定メ或ハ之ヲ増減スル等都テ同省へ上申シテ其處分ヲ乞フヘシ其他ノ事件ト雖モ臨時難決モノハ亦之ニ同シ
- 第六 (同上ニ依リ消滅ス)

○神宮職員官等改正

十九年十一月二十二日
勅令第七十一號

朕茲ニ神宮職員官等改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第七十一號

神宮職員官等表

月俸	勅任		奏任					判任	
	祭主	宮司	二 等	三 等	五 等	六 等	四 等	五 等	常 等
八拾圓	三拾圓	貳拾五圓	拾五圓	拾貳圓	八圓	四圓	七圓	四圓	

○神宮職員官等表中追加

二十三年一月四日
勅令第一號

朕茲ニ神宮職員官等表中追加ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

第九類 第一章 神社神官

勅令第一號

千百四十八

神宮職員官等表中祭主ノ欄ニ左ノ通追加ス

祭主ハ皇族ヲ以テ之ニ任ス(二十三年十二月二十二日勅令第二百八十五號)

○郷村社祠官祠掌給料ハ人民ノ信仰ニ任セ適宜給與セシム六年二月二十二日 大政官達第六十七號府縣

壬申第五十八號布告ノ通各地方郷村社祠官祠掌給料ノ儀ハ是迄民費課出ノ規則ニ候處自今相廢シ候條人民ノ信仰ニ任セ適宜給與爲致可申此段相達候事

○官國幣社及府縣郷社共古來ノ制式保存方八年九月十四日 大政官達第五百十九號(使)府縣

官國幣社及府縣郷社共古來ノ制式容易ニ變換候テハ後來其照鑑ヲ失ヒ候條本社並附屬建物周圍玉垣等些少ノ物件ニ至ル迄厚ク保存可致就テハ自今修復再造ノ節用材物品等モ可成舊式ニ不違樣可取計此旨相達候事

但官國幣社ノ内社殿矮陋祭儀雜相整向モ有之候ハ、修復再造等ノ節其旨委細具狀内務(教部)兩省宛ヲ以テ(教部省)へ可差出申(九年第六號達ヲ以テ但書ヲ改正ス)

○府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ身分取扱方ヲ定ム十二年十一月十一日 大政官達第四十五號府縣

府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ身分取扱ハ一寺任職同様タルヘシ此旨相達候事

○官國幣社祠官ヲ廢シ更ニ神職ヲ置ク二十年三月十七日 閣令第四號

官國幣社ノ祠官ヲ廢シ更ニ左ノ神職ヲ置ク

宮司
禰宜
主典

宮司ハ内務省ニ於テ之ヲ補シ禰宜主典ハ北海道廳府縣ニ於テ之ヲ補ス帝國神社宮司以下ハ陸軍省海軍省ニ於テ之ヲ補

ス

宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ禰宜主典ハ判任ノ待遇ヲ受ケ

○神社制札六年四月十日 教部省達第十九號府縣

當省第十三號布達諸神社制札之儀今般別紙之通横文致改正候條此段相達候事

別紙

官國幣社並府縣社制札十年二月内務省達第六號ヲ以テ制札面横文削除ニ付之ヲ除キ十一年十月 同省達第六十六號(未ニ掲出)ニ依リ(年號月)ノ下(教部省)ヲ(某府)ト加ム

寸法適宜

定
一車馬ヲ乘入ル事
一魚鳥ヲ捕ル事
一竹木ヲ伐ル事
右條々於境内令禁止者也
年號月
某府縣

府縣社制札文言同上但教部省名並洋文中ノ同字ヲ某府ノ字ニ換ヘ右堅可相守者也ノ七字府縣名共相除クヘシ

○神官奉務規則六年七月二十日 教部省達第二十四號府縣

神官奉務規則別紙之通相定候條此旨管内府縣郷社神官へ相達可申事

第九類 第一章 神社神官

千百四十九

- 第一 祭祀ノ典則ハ之ヲ遵守シテ違亂スヘカラス其一祀ノ例祭民俗因襲ノ神祇等ハ地方ノ適宜ニ循ヒ行フヲ得ヘシ
- 第二 例祭常施ノ外滯旱疾疫等臨時祭事ヲ行ハ其地方官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三 人民ノ請求ニ應シ祈禱ヲ行ヒ神符ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ合祭ノ所業ハ之アルヘカラス
- 第四 神官ハ教導職ヲ兼務ス其責タル甚重ナリ故ニ團體ヲ辨ヘ理義ニ通シ其言行皆師表ノ任ニ勝ユヘキヲ要スヘシ
- 第五 教養ハ三條ノ御趣意ヲ遵奉シ及ヒ一般ノ教導職ト協和シ悖戾ノ所爲アルヘカラス
- 第六 卜筮方位ヲ以テ漫リニ吉凶禍福ヲ説キ無稽ノ祈禱等決テ行フヘカラス
- 第七 社殿及ヒ其境内ヲ清潔ニシ修繕取締リ等常ニ意ヲ用ヒ汚穢褻瀆ニ至ラシムヘカラス
- 第八 一社所藏ノ寶物什器及ヒ古文書類等之ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス
- 第九 葬祭ヲ乞フ者アルトハ喪家ノ分ニ隨テ其式ヲ立懇切ニ執行シ聊モ遺憾ナカラシムヘシ
- 第十 喪葬ニ臨ミ若シ瘞死異常等疑シキ申アラハ其情狀ヲ地方官ヘ報知シ應允ヲ得テ後葬儀ヲ行フ可シ曖昧ノ處置アルヘカラス
- 第十一 神社境内ニ於テ非常ノ事故アルトキハ其情實ヲ地方官ニ報達シ其指揮ヲ受クヘシ

明治六年六月

教部大輔 實戸 璣

○神宮大麻頒布ハ地方官ノ關係ニ不及人民各自ノ自由ニ任ス 七年一月二十日 教部省達書第一號府縣

神宮大麻頒布之儀ニ付明治五年六月元教部省ヨリ相達置候趣モ候處右ハ自今地方官ノ關係ニ不及候條其受不ハ專ラ人民ノ自由ニ爲任候儀ト可心得此旨相達候事

○社務取扱所名稱ヲ定ム 七年二月二日 教部省達書甲第一號官國幣社

官國幣社取扱所稱呼各社異稱候趣今後一般某神社々務所ト相唱可申此旨爲心得相達候事

○神社授符配札ヲ差止ム 八年五月十四日 教部省達書甲第六號官國幣社

各社授符配札之儀ニ付テハ七年二月二日當省甲第二號ヲ以相達候趣モ候處自今配札ノ儀ハ差止候尤該社々頭ハ勿論教院說教所

ニ於テシ又ハ出張所等ニテ信仰ノ者ハ授與候儀ハ不苦候條他管内ノ分ハ兼テ其管轄處ヘ可届置此旨相達候事

但氏子等ハ配授ノ儀ハ非此限尤新規出張所取扱候儀ハ其管轄ノ許可ヲ可受儀ト可心得候事 (九年達書甲第七號) 達書第一號(出張所)ノ下(取扱)ヲ(等ニテ)ト改メ但書(非此限)ノ下廿七字ヲ增加ス

達書第十七號

府 縣

○府縣社以下祠官祠掌ノ進退取扱方 八年五月十五日 教部省達書第十八號府縣

府縣社以下祠官祠掌進退是迄成規無之候處自今氏子共歸依之者相撰氏子總代並(同區内)ニテ重立候神官二名以上連署爲願出候上猶人體可否篤ト取調進退可申付此旨相達候事

但氏子無之向ハ其地人民ヨリ本交同様之手續ヲ以可爲願出申

○官國幣社制札面ヲ削除ス 十一年十月廿三日 內務省達書第六十六號府縣

官國幣社制札面自今當省名并各管轄處ノ添書ヲ削除シ其附ト署名致スヘク尤見今建設有之分ハ建替ノ節改メ候儀ト可心得此旨相達候事

○府縣社以下祠官祠掌進退取扱方 十二年十一月十四日 內務省達書第四十八號府縣

本年十一月十四日號公達ノ趣ニ付自今府縣社以下祠官祠掌進退ノ節ハ八年五月教部省第十八號達書ノ手續ニ準シ爲願出候上於其地方廳許可スヘシ此旨相達候事

但出願ノ節地方官ニ於テ許可難致事情有之モノハ委詳具狀當省ヘ處分方伺出ヘシ

○府縣社以下神官撰舉ノ節皇典講究所ノ卒業證書又ハ試驗濟證書ヲ添出願認可ノ件 十五年十月 內務省達書第四十六號府縣(河繩縣ヲ除ク)

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官撰舉ノ節該所ノ卒業證書無之者ハ皇典講究所本分所ノ試驗ヲ受サセ試驗濟ノ證

書ヲ相渡候旨ニ付今後撰舉出願ノ向ハ該所卒業證書寫若クハ試験済ノ證書ヲ副へ願出候者ニ限リ認可ヲ與へ候儀ト可心得此旨相達候事

○神官教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セス 十五年一月二十四日 内務省達シ第七號府縣

自令神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事 但府縣以下神官ハ當分從前之通

●沿革要領

明治元年三月神祇事務局令シテ僧形ヲ以テ神社ニ奉仕シ別當社僧ト唱フル者ヲ復飾セシム○同年四月十日布告シテ神社ニ在ル佛像佛具等ヲ取除カシム○四年五月十四日布告ヲ以テ世襲ノ神官ヲ廢シ總テ精選補任セシム○同日又布告シテ諸神社ノ格式神官ノ職制ヲ定ム○同年七月四日布告ヲ以テ大小神社氏子取調規則ヲ定ム○同日又布告ノ大小神社氏子ニ守札渡方ノ規則ヲ定ム○四年十二月神祇官布達シテ皇太神宮大麻ヲ海内一般ニ頒布ス○五年二月第五十七號布告ヲ以テ神官ノ官等ヲ定ム○同年第五十八號布告ヲ以テ官社府縣神社神官俸給ノ定額ヲ定ム○同年六月敕部省第五號布達ヲ以テ皇太神宮大麻府縣ニ於テ人民ニ取扱方ヲ定メシム○同年第七十五號布告ヲ以テ伊勢神宮其他諸神社祭典ノ節タリトモ僧尼ノ參詣ヲ得セシム○同年八月第二十二號布告ヲ以テ自令神官ノ單ハ總テ教導職ニ補ス○六年三月敕部省達第十三號ヲ以テ官國幣社並府縣社ノ制札ヲ定ム○同年四月同省達第十九號ヲ以テ前令中ノ書式ヲ改正ス○同年五月第八十號布告ヲ以テ四年七月達氏子調ヲ停止ス○同年七月敕部省達第二十四號ヲ以テ神官奉幣規則ヲ定ム○同年第三百七十七號ヲ以テ府縣神社官ノ月給ヲ廢シ鄉村社同僚人民ノ信仰歸依ニ任セ給與セシム○同年十二月第四百二十一號布告ヲ以テ四年五月達神社改正規則ヲ更定ス○七年一月敕部省達第一號ヲ以テ各社ニ於テ配札勸財ヲ爲スヲ嚴禁ス○同年第十二號布告ヲ以テ神社改正規則中第四條ヲ改正ス○同年二月敕部省達甲第一號ヲ以テ各社々務取扱所ヲ某神社々務所ト唱ヘシム○同年同省達書甲第二號ヲ以テ社頭ノ外ニ於テ配札等ヲ爲スハ府縣ノ許可ヲ受ケシム○八年五月敕部省達書第六號ヲ以テ各社ノ神符ハ其社頭等ニ於テシ氏子等へ配授ノ外

配札ヲ禁ス○同年九月第五百五十九號ヲ以テ諸神社トモ古來ノ制式變リニ變換スヘカラサル旨ヲ達ス○九年一月第六號達ヲ以テ前令中但書ヲ改正ス○同年十二月敕部省達書甲第七號ヲ以テ八年甲第六號達書中ヲ改正增加ス○十年七月内務省甲第十三號布達ヲ以テ府縣社以下神社什物取締方ヲ定ム○同年十二月第九十一號達ヲ以テ神宮官國幣神社官ヲ廢シ更ニ祭主以下職員官等月俸ヲ定ム○十一年三月内務省第七十三號達ヲ以テ神宮大麻頒布ノ儀自令地方官ノ關係ニ及ハス受不ハ人民ノ自由ニ任ス○同年九月内務省第七十七號ヲ以テ社寺取扱規則ヲ定ム○十二年十一月第四十五號達ヲ以テ府縣社以下祠官祠堂ノ等級ヲ廢シ身分取扱ハ一寺任職同僚タルヘシ○十三年六月内務省第七十八號達ヲ以テ社寺取扱規則第一條及第三條ニ増補ス○十四年十月第八十八號達ヲ以テ十年第九十一號達神宮並官國幣社職員中等外出仕ノ項ヲ追加ス○十五年一月第三號達ヲ以テ神宮職員中ニ權官司ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○同月内務省第七號達ヲ以テ自令神官教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス○同年十月内務省達第七十五號ヲ以テ神社寺院ノ守札及神佛號ヲ記載セル畫像其神社寺院外ニ於テ出版スルヲ禁ス○十九年十一月勅令第七十一號ヲ以テ神宮職員官等表ヲ改正ス○二十年三月閣令第四號ヲ以テ官國幣社神官ヲ廢シ更ニ官司以下ノ神職ヲ置ク

○官幣社官祭執行方

六年二月十五日 布告第五十三號

從前官幣諸社官祭ノ儀式部寮官員參向執行候處今後伊勢神宮ヲ除クノ外總テ地方官ニ於テ執行可致事但巨細ノ儀ハ追テ式部寮ヨリ可相達事

○伊勢神宮及官國幣社等祭典ノ節着服禮式ヲ定ム

八年十二月二十日 式部寮布達

伊勢神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節奉仕并拜禮ノ單殿上ノ式ハ祭服禮禮庭上ノ式ハ大禮服着立禮ノ申

但神官ハ明治七年正院御布告第三拾八號ニ依リ坐禮立禮共祭服ヲ用ユヘキ申

右之通被定候條來明治九年一月ヨリ執行可致且管内ニ官國幣社等有之向ハ其旨神官へ可被相達此段及布達候也

○神佛祭禮開扉等ノ節奇怪ノ打扮等ヲ爲スヲ禁ス

六年七月五日 敕部省達第二十六號府縣

神佛祭禮開扉等之節兼テ信仰ノ者ハ夫々禮敬ヲ盡シ參拜可致等之處從來ノ弊風ニ泥ミ奇怪之打扮或ハ男女姿粧ヲ易ヘ候

等ノ儀有之趣醜態ヲ極メ候ノミナラス却テ神佛ヲ瀆瀆シ以之外之儀ニ付以來右様之儀無之尊崇之本意ヲ體シ候様可致

○諸神社祭禮神輿渡御ノ節粗暴ノ所業ヲ禁ス 六年九月二十二日 教部省達第二十九號府縣

諸神社祭禮神輿渡御之節往々祭儀ニ托シ粗暴之所業有之或ハ途中之家家ニ觸レ或ハ往來之妨礙ヲ爲ス等許多之弊害不少候趣相聞不都合之至ニ候條向後取締方精々注意シ粗暴之所業無之様可致此旨相達候事

番外 神道管長

別紙(前文)之通各府縣ハ及布達候ニ付テハ前顯之次第致義上ニ於テ關係不少儀ニ付平素ヨリ神官之者各氏子ヘ丁重説諭致置不都合之所業無之様可及通達此旨相達候事

○神宮官國幣諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許方(第四類第二章禁令)

○府縣社以下古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿供奉ノ舊例アル向供奉中帶刀差許方(上)

○官國幣社祈年祭新嘗祭例祭地方官參向方 十六年二月二十六日 內務省達第七號府縣(官内卿連署)

官國幣社祈年祭新嘗祭例祭之儀ハ神社祭式之通地方長官又ハ次官參向可致答ニ付可成之事務聯合セ參向可致尤遠隔ノ地等不得已支障有之代理參向ノ節ハ府縣官并郡(區)長ニ限リ候義下可心得此旨相達候事(十七年十一月十一號兩省)

○神宮及國幣社等祭典ニ付勅使參向ノ節着服 十七年一月二十四日 宮内省達第七號府縣

神宮及官國幣社諸儀等祭典ニ付勅使トシテ祭典參向ノ節ハ自今祭服(從前)着儀條此旨相達候事 但地方官勅使相勸候節ハ便宜大禮服ヲ以テ祭服ニ換用可致尤殿上ノ式ハ明治八年十二月 式部省布達ノ通可心得事

○寺院佛像持出開帳ノ達ヲ廢シ他管持出開帳ノ節出願手續ヲ定ム 十七年三月十九日 內務省達第七號府縣

明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管持出開帳之儀ハ該寺住職檀家總代(無檀家ノ寺院ハ信徒總代)及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳ヘ出願セシム、此旨相達候事

但畜物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

○祭服ノ品等ヲ定ム 十七年五月六日 宮内省達第七號府縣

神宮及官國幣社諸儀等祭典ノ節勅使着服ノ儀本年一月相達置候處自今服制官位ニ依リ左表ニ照準シ着儀スヘシ此旨相達候事

冠	親王	三位以上官	二等官三等官	五位官	六位以下官	判任官
袍	有紋黑羅	同	同	同	無紋黑縮	烏帽子狩衣
單	有紋紅綾	同	同	同	紅平絹	
袴	有紋紫圍織	同	紫平絹	同	白布	

冠 親王ハ從前着儀ノ紋ヲ用井テ可シ但適宜ノ紋ヲ撰用井テハモ妨ナシ 勅任官以下五位以上ハ選文但所有ノ單ハ在來ノ紋ヲ用ユルモ妨ナシ

袍 親王ハ冠紋ニ同シ 勅任官以下五位以上ハ(糖唐草)(輪無)ノ内ヲ用ユ可シ

單 親王以下五位ニ至ル迄製緊紋同遠紋兩様ノ内ヲ用ユ可シ

袴 親王冠紋ニ同シ 一等官三位以上藤ノ丸紋ヲ用ユ可シ

○人民私邸内等自祭ノ神祠佛堂衆庶參拜許否處分方 九年十二月十五日 教部省達達書第三十八號府縣

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂ヘ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信仰人共有ノ筋ヲ以テ尚參拜之儀願出候ハ、承續方法並神官僧侶之受持等夫々取調爲申出候上

管轄處見込相立可伺出此旨相達候事
但從前願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出

●沿革要領

明治元年十一月十八日新嘗祭ヲ行ハル○二年二月二十二日布告ヲ以テ祈年祭ヲ再興ス○四年三月布告シテ大嘗祭ヲ執行セラル○同年六月廿五日布告ヲ以テ大祓式ヲ再興シ天下一般執行セシム○五年十一月第三十九號達ヲ以テ大禮服上下一般通帯ノ禮服ヲ定メ從前ノ衣冠ヲ以テ祭服ト爲ス○同年十一月第三十四號布告ヲ以テ一月二十九日ハ神武天皇御即位日ニ相當ス仍祝日ト定メ例年祭典ヲ行フ○同月第三十六號布告ヲ以テ元始祭式孝明天皇通拜式神武天皇即位日通拜式ヲ定ム○同月第三十六號布告ヲ以テ今般頒布ノ太陽曆ニ掲載ノ祝日祭日ハ當分假定ノ儀ト心得シム○六年二月第四十一號布告ヲ以テ從前ノ衣冠ヲ以テ祭服トスヘキ旨布告ノ處衣冠所持ナキ輩ハ袴衣直垂淨衣等ヲ祭服ニ換用セシム○同月第五十三號布告ヲ以テ自今伊勢神宮ヲ除クノ外官國幣社ノ官祭ハ地方官ニ於テ執行セシム○同年七月敕部省第二十六號達ヲ以テ神佛祭禮團扇等ノ節參拜人等奇怪ノ風俗ヲ禁ス○同年七月第二十五號布告ヲ以テ太陽曆掲載ノ歷代皇靈以下諸社ノ祭日及ヒ祝日ヲ定ム○同年八月第九號ヲ以テ前令中ノ改定ヲ布告ス○同年九月敕部省達第二十九號ヲ以テ祭禮神輿渡御ノ節粗糞ノ所禁ヲ禁ス○八年四月第六十一號達ヲ以テ五年第二十五號及第三十五號及第三十八號達祭式ヲ廢ス○同年四月二十四日式部省祭禮式ヲ頒布ス○同年八月敕部省達第三十四號達ヲ以テ府縣以下ノ祭典モ式部省頒布ノ祭式ニ準セシム○九年六月敕部省布達第四號ヲ以テ各寺院佛像他管內ヘ持出シ開帳ヲ禁止ス○同年七月敕部省達第五號ヲ以テ諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ古例アル向ハ供奉中帶刀ヲ許ス旨ヲ官國幣社ヘ達ス○十一年三月內務省達第二十一號達ヲ以テ府縣以下ニ於テモ前令同儀供奉中ニ限リ其人ノ帶刀ヲ許ス○同年六月第二十二號達ヲ以テ春秋二季ノ皇靈祭ヲ置ク○同年七月十八日式部省達ニ於テ前令ニ依リ神社通拜式增加ヲ頒布ス○十二年二月二十八日同省達ニ於テ前令廢止ノ旨ヲ頒布ス○同年七月第二十七號布告ヲ以テ神嘗祭日ヲ改定ス○十六年二月內務省達第一號ヲ以テ神宮及國幣社等祭典ノ節參向ノ勅使ハ祭服ヲ着用セシム○同年二月內務省達第十一號ヲ以テ十六年七月第八號達但書ヲ刪除ス○同年三月內務省達第十六號ヲ以テ九年敕部省第四號布達ヲ廢シ佛像他管持出シ開帳出願方ヲ達ス○同年五月內務省達第七號ヲ以テ神宮官國幣社等祭典ノ節勅使着用服制表ヲ頒ツ

第二章 寺院僧侶 社寺財產

○無檀ニシテ無住ノ寺院廢止方 五年十一月八日 布告第三百三十四號

諸寺院中總本寺本山ヲ除クノ外無檀ニシテ無住ノ向ハ自今渾テ被廢止候條各地方官ニ於テ夫々廢寺處分ノ上宗名寺號共詳悉取調敕部省ヘ可届出候事

但佛像什器等ハ本寺法類ノ内最寄寺院ヘ合附爲致堂宇建物ノ儀ハ最初營造ノ次第ヲ追ヒ官營ハ公收シ私造ハ其人民所分ニ可相任官私ノ別不分明ノ向ハ適宜ニ取計ヒ跡地所置ノ儀ハ總テ大藏省ヘ可伺出候事

○寺院廢止處分方 八年十月二十七日 太政官達第四百八十五號(使)府縣

寺院合併廢止等ノ儀ニ付明治五年四月第百拾六號同月十一日第三百三十四號達ノ旨モ候處自今無檀無住ノ向ハ各官廳ニ於テ取調其他ハ寺檀出願ノ上執レモ敕部省ヘ伺出處分可致此旨更ニ相達候事

○無檀無住ノ寺院廢止處分手續 十二年一月十一日 內務省達第七號府縣

無檀無住ノ寺院廢止處分ノ儀ハ明治十一年當省第七號達第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ廢合出願ノ上處分可致此旨更ニ相達候事

○廢合寺院跡地并建物處分規則 八年九月七日 內務省達第七號府縣

廢寺院處分ノ儀ニ付壬申第三百三十四號御達ノ趣モ有之候處自今廢合寺院跡地并建物處分規則別紙ノ通相定候條右規則ニ照準取調可申出此旨相達候事

別紙

廢合寺院跡地并建物處分規則

第九類 第二章 寺院僧侶

第一節

廢寺 無檀 無任

一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先任僧侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノ、別ヲ論セス官沒スヘシ(九年七月七號省令ヲ以テ但書共全項改正)

一境内地ノ内從前人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシモノハ其者へ下渡シ寺院ノ名受カ先任僧侶ノ買得カ其他民有ノ確證ナキモノハ都テ官沒スヘシ

一朱果印地除地田畑山林等ノ内寺院ノ名受地ハ勿論村方百姓並ノ田畑等アリテ寺院ノ名受トナリタルカ又ハ先任僧侶ノ買得セシモノハ官沒スヘシ

但寺院并先任僧侶ノ資金ヲ以テ開墾セシ證跡アルモノト雖モ官沒スヘシ

一人民ヨリ寄附ノ田畑アツテ貢租作徳共該寺ニ於テ處分致シ來ルモノハ即チ寺附ノ地面ニ官沒スヘシ然シ寄附人ノ子孫再ヒソノ所有ヲ欲セハ相當代價ヲ以テ拂下ヘシ

第二節

廢寺 有任 無檀

一現任職自己ノ財産ニ係ルモノ、外ハ第一節及第四節ニ照準シテ處分スヘシ

第三節

合寺 無檀 無任

一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先任僧侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノ、別ヲ論セス合スル所ノ寺院ニ附スヘシ(同上)

一境内地ノ内人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシ者ハ其者へ下渡シ寺院ノ名受カ先任僧侶ノ買得或ハ開墾ノ確證アルモノハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ確證ナケレハ官沒スヘシ

但萬一除稅地ノ山林ニ於テ先任僧侶自費ヲ以テ苗木植付等ノ確證アレハ立木ノ合スル所ノ寺院へ下渡スヘシ

第四節

合寺 有任 無檀

一第三節ニ同シ但建物境内地田畑山林等ノ内萬一現任職ノ資金ヲ以テ建造シ或ハ買得開墾等ノ確證アレハ其者ノ意ニ任カスヘシ

第五節

合寺 有檀 無任

一第三節ニ同シ但建物ハ檀中等ノ私費ヲ以テ造營セシモノ及ヒ境内地田畑山林等檀中ノ私費ヲ以テ買得シテ地租ヲ納メ來リシモノ或ハ開墾セシモノハ其合スヘキ寺院並ニ注類等トノ協議ニ任スヘシ

●沿革要領

明治三年十一月廿八日廢合寺院ノ寺號並境内除地山林等ノ處分方ヲ地方ニ令ス○五年三月第百四號布告ヲ以テ社寺ヲ合併シ及其所屬地ニ係ル處分ハ自今敎部省ニ稟議セシム○同年四月第百十六號布告ヲ以テ前令ヲ改ム○同年十一月第百三十四號布告ヲ以テ諸寺院總本山ヲ除ク外無檀ニシテ無任ノ向ハ還テ之ヲ廢ス○六年二月敎部省第七號達ヲ以テ無檀ニシテ有任ノ寺院今後無任トナルモ敎部省ノ稟議ヲ經サレハ廢スルコト許サス○同年八月敎部省第廿八號布達ヲ以テ諸寺院廢合出願書ニ本法類檀家等ノ添書ナキモノハ採用セス○八年九月内務省第七百十三號達ヲ以テ廢合寺院跡地并建物處分規則ヲ定ム○同年十月第百八十五號達ヲ以テ寺院廢合自今無檀無任ハ地方官ニ於テ取調其他ハ寺指出願ノ上執レモ敎部省ニ稟伺ノ上處分セシム○十一年九月内務省第七百五十七號達ヲ以テ社寺取調規則ヲ定メ社寺創立廢合從舊等ノ取扱方ヲ示ス○十二年内務省第一號達ヲ以テ無檀無任ノ寺院廢止ノ儀ハ前令第二條ノ手續ニ準シ其本法類等ヨリ出願ノ上處分セシム○十七年内務省第三十八號達ヲ以テ寺院創立再興從舊轉

廢合及財産ニ關スル請願ハ管長添書ヲ爲サシム

○神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級進退ヲ管長ニ委任ス

十七年八月十一日
太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 教師ノ等級進退ノ事

一 以上神道管長ノ定ム可キ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事

一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

以上佛道管長ノ定ム可キ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ得テ之レヲ稱スルコトヲ得

右布達候事

○神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方 二十二年五月二十七日
内務省訓令第二十二號 神佛各教宗派管長

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ送付スルコトヲ得

○管長身分取扱 十七年八月十一日
太政官布達第六拾八號 神佛各宗派一般 (十七年第七十號ヲ以テ官省)
管長身分ノ儀ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル

右相達候事

○從前ノ教導職タリシ者身分取扱方 十七年八月十一日
太政官布達第六拾九號 神佛各宗派一般 (同上)

今般教導職廢セラレ候ニ付テハ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フ者トス
右相達候事

○盲僧取締方 八年七月十二日
教部省達達書第貳拾九號 府縣

元青蓮院配下盲僧ノ儀者總テ天台宗ニ於テ所轄取締可致儀其管長へ達置候條此旨爲心得相達候事
但盲僧之一派永存之旨趣ニ無之候條爾後盲子養取或ハ他人へ傳業候等之儀ハ勿論不相成筋ニ候事(八年達置第三十五號)
省達ヲ以テ但書追加

○盲人ニ非スシテ盲僧ノ業ヲ營ムヲ禁ス十三年七月十二日
内務省達乙第三拾貳號府縣

明治八年教部省第三十五號盲僧之儀ニ付達置自今相應候條此旨相達候事

但盲人ニ非スシテ該業相營候儀ハ不相成筋ニ候事

○禁厭祈禱ヲ行ヒ醫藥ヲ妨クルヲ禁ス七年六月七日
教部省達置書第二十二號府縣

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長へ相達候條向後禁厭祈禱ヲ以醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候條ノ所業致候者有之
候ハ、於地方官取締可致此旨相達候事

達置乙第三十三號

神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦痛候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥

ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ申ニ候抑教導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候條ノ所業有
之候テハ朝旨ニ乖戾シ政治ノ障碍ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之條屹度取締可致此旨相達候事

○禁厭祈禱ヲ請フモノアルキ醫師施療中ノ者ニ限リ其望ニ應スルヲ許ス十五年七月十日
内務省達乙第三號

神道副總裁
佛各管長達

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ
相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦

候條其旨屹度可相心得此旨相達候事

乙第四十二號

府 縣 神道副總裁
佛各管長

別紙乙第三號ノ通神道副總裁へ相達候條今後違背之輩有之候半ハ直ニ差止置委詳當省へ具狀可致此旨相達候事

○教院教會所說教所ニ於テ葬儀ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等ノ所爲ヲ禁ス十四年十月三日
内務省達乙第四十八號府縣

別紙乙第三號之通神道副總裁へ相達候條此旨爲心得相達候事

別紙

戊第三號(十月三日)

神道副總裁
佛各管長

教院教會所說教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ倣フモノ有之候テハ不都合候
條心得違無之條可爲致此旨相達候事

○神道教導職其主神ヲ鎮祭シ教徒ノ葬儀ヲ執行スル爲メ祠宇建設出願方十五年一月廿三日
内務省達乙第四號

府縣

今般祠宇建設ノ儀別紙戊第一號之通相達候條該教導職并教徒信徒ヨリ出願候ハ、十三年乙第五十二號達ノ振合ヲ以テ廉
々精査ノ上當省へ伺出此旨相達候事

別紙

戊第一號(十五年五月廿三日)

神道副總裁
同 照任派管長
修成派管長

昨十四年第三號ヲ以テ教院教會所說教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ衆庶ニ參拜セシムル等ノ儀不都合ノ旨相達候條自今神道
教導職奉教ノ主義ヨリ其主神ヲ鎮祭シ其教徒ノ葬儀ヲ執行スル等ノ爲祠宇建設ヲ要スル向ハ左ノ條件ヲ詳記シ其地方廳
へ出願スヘシ此旨相達候事

一 祠宇建設ヲ要スル理由

一 諸建物坪數繪圖面自論見任樣并境内地坪地種名受共

一 承續資本ノ動不動財產并葬儀ヲ托スルモノ及信徒ノ員數

第九類 第二章 寺院僧侶

○僧侶肉食妻帶蓄髮等ヲ許ス 五年四月二十五日 布告第四百三十三號

自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事

但法用ノ外ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事

○比丘尼蓄髮肉食縁付ヲ許ス 六年一月二十二日 布告第四百六號

壬申第四百三十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ自今比丘尼ノ儀モ蓄髮肉食縁付歸俗等可爲勝手事

但歸俗ノ輩ハ入籍致シ候上戸長ヘ可届出事

○僧侶肉食妻帶勝手ナルノ公布ハ宗規ニ關係セシ譯ニ無之 十一年二月二日 内務省達番外佛道各宗管長

明治五年^四第四百三十三號僧侶肉食妻帶等可爲勝手公布ノ儀ハ從前右等ノ所禁ヲ禁止セシ國法ヲ廢セラレ候旨趣ニ止リ決シテ宗規ニ關係無之譯ニ候條此旨爲心得相達候事

●沿革要領

明治元年九月十八日布告ヲ以テ僧侶ノ安リニ復飾スルヲ止ム○三年八月九日寺院任職繼目從前本寺本山ニ於テ取扱來ル處自今管轄地方官ヘ掛合取附ハシム○同年十二月廿六日布告ヲ以テ宗規僧風ヲ整正スル旨ヲ各本寺本山ニ示ス○四年六月十九日布告ヲ以テ自今僧尼トナラントスル者ハ地方官ヘ出願許可ヲ受ケシム○同年十月廿八日布告ヲ以テ普化宗ヲ廢シ任僧ヲ民籍ニ編入ス○五年二月第六十三號布告ヲ以テ從來永宣旨ヲ以テ諸寺院ニ許シタル僧位僧官ヲ廢ス○同年三月十四日一向宗ヲ眞宗ト改稱ノ旨ヲ達ス○同年四月第三百三十二號布告ヲ以テ教導職ヲ置キ等級ヲ定ム○同年第三百三十三號布告ヲ以テ僧侶肉食妻帶等ヲ許ス○同月廿八日教部省達ヲ以テ教則三條ヲ定メ教導職ノ置ラシテ該教則ヲ奉體シテ布教セシム○同年五月教部省第一號達ヲ以テ僧侶得度及歸俗任職繼目ノ類ハ教部省ノ指揮ヲ

受ケシム○同年六月教部省第四號達ヲ以テ各宗ニ管長一名ヲ置キ一宗末派ヲ取締ラシム○同年七月教部省第九號達ヲ以テ中本寺以上ヲ除クノ外寺院任職繼目等ハ本寺本山或ハ觸頭法類等ヨリ添書ヲ以テ地方官ニ於テ進退セシム○同年八月第二百二十號ヲ以テ神官ノ職總テ教導職ニ補ス○同年八月第二百二十七號布告ヲ以テ僧官ヲ廢ス○同月教部省第十三號達ヲ以テ教導職七級以下試補ヲ置ク○同年九月七日教部省達ヲ以テ各部諸宗派教導職取締ノ爲メ幹事一人ヲ置ク○同月十五日教部省達ヲ以テ幹事ヲ改ム○同月第二百七十三號布告ヲ以テ修驗宗ヲ廢シ宗派ノ者ハ天台眞言ノ兩本宗ニ歸入セシム○同月第二百七十四號布告ヲ以テ法相華嚴律兼學融通念佛ノ五宗其他諸宗ノ別派等ヲ各望ノ宗ニスラシメ惣本山ノ所轄トス○同年十月三日教部省達ヲ以テ各宗ニ教導職管長ヲ置キ一宗一人ト定ム○同月教部省第廿三號達ヲ以テ教導職管事事務章程ヲ定ム○同年十一月第三百三十四號布告ヲ以テ總本寺本山ヲ除クノ外無檀ニシテ無任ノ寺院ヲ廢ス○六年一月廿七日達ヲ以テ元門跡比丘尼御所無任ノ向自今任職ヲ許ス○同年二月教部省第七號達ヲ以テ無檀ニシテ有任ノ寺院今後無任トナルモノハ教部省經伺ノ上ニ非サレハ廢止ヲ許サス○同月教部省第十號達ヲ以テ神官僧侶ニ不限三條ノ綱領ニ基キ布教筋有志ノ者ハ一般ニ教導職ニ補ス○同年三月廿九日金剛峯寺教王護國寺ノ兩刹ヲ以テ古義眞言宗惣本寺ト定ル旨ヲ達ス○同年八月文部省第三百十五號布達ヲ以テ學校教師ヲ教導職ニ兼シムルヲ禁ス○同月三十日教部省達ヲ以テ日蓮宗ハ總本山ナキニ依リ法務等管長ニテ統轄セシム○同月教部省第廿八號布達ヲ以テ諸寺院廢合等其本寺及法類檀家等ノ添書ナキモノハ採用セス○同年十二月教部省第三十五號達ヲ以テ教導職七級以下ノ階級ヲ廢シ總テ教導職試補トス○七年一月教部省第一號布達ヲ以テ寺院任職本山本寺ノ向ハ教部省ニ於テ辭令書ヲ交付ス○同年二月教部省第二號布達ヲ以テ融通念佛宗ノ特立ヲ許ス○同月教部省達書第二號ヲ以テ禪宗中臨濟曹洞ハ更ニ其宗名ヲ傳シ黃檗派ハ臨濟宗ニ合附セシム○同年三月教部省達書第七號達ヲ以テ教徒取締ノ都合ニ依リ各宗派ニ管長ヲ置クヲ許ス○同年教部省達書第三號達ヲ以テ寺院任職進退ノ儀中本寺以下モ本年布達第一號ニ準シ地方官ニ於テ辭令書ヲ交付セシム○同年五月教部省第三號布達ヲ以テ寺院輪番任職ノ制ヲ廢シ本任職ヲ置カシム○同年七月教部省達書第三十二號達ヲ以テ各地方教導職取締講義以下本職ノ者

～申付シム○同月教部省達書第三十一號達ヲ以テ自今教導職試補以上ニアラサレハ寺院任職ヲ許サス○同月教部省達書第三十九號達ヲ以テ現今一寺任職ニテ無職ノ者ハ教導職試補ニ任シ其任シ難キモノハ退職セシメ眞宗等幼弱ノ輩ハ其本寺法類へ兼任願出追テ本人成立ノ上任職セシム○八年五月教部省達書第四號達ヲ以テ神佛各宗派合併布教ヲ停止ス○同年七月教部省達書第九號達ヲ以テ各府縣ノ内寺名ヲ一山ノ總稱トシ無任ノ寺院ハ教導適任ノ者ヲ選ビ任職願出シム○同年八月教部省達書第十三號達ヲ以テ各宗從來遵守スル宗規ヲ具申セシム○同年十一月教部省達書第五十一號達ヲ以テ淨土宗教導職試補年限ヲ定ム○九年二月教部省達書第四號達ヲ以テ眞宗派ハ五派別立ヲ許シ各管稱シ別立ヲ許ス○同月教部省達書第七號達ヲ以テ日蓮宗中一教派ヲ單ニ日蓮宗ト稱シ勝劣派ハ五派別立ヲ許シ各管長ヲ置ク○同年四月教部省第三號布達ヲ以テ日蓮宗中不受不施派自今派名再興布教ヲ許ス○同年五月教部省達書第十八號達ヲ以テ各寺院ニ副任職ヲ置クヲ許ス○同年九月教部省達書第七號達ヲ以テ臨濟宗九派へ各管長ヲ置クヲ許ス○同月教部省達書第廿八號達ヲ以テ眞宗本願寺末派興正寺へ別立ヲ許ス○同月教部省達書第三十號達ヲ以テ淨土宗西山派ヲ別立シ管長ヲ置クヲ許ス○十年四月内務省第七號達ヲ以テ眞宗各派ニ各管長ヲ置クヲ許ス○十一年二月内務省第十號達ヲ以テ眞宗塔地寺外二寺派名公稱別立ヲ許ス○同年三月内務省第七號達ヲ以テ淨土宗中寺院ヲ東西二部ニ分チ各自管長ヲ置クヲ許ス○同年五月内務省第三十九號達ヲ以テ天台宗中眞盛派ニ管長ヲ置クヲ許ス○同月眞言宗仁和寺外七寺ヲ該宗西部ト稱シ別ニ管長ヲ置クヲ許ス○同年十一月内務省第八十五號達ヲ以テ眞言宗古義新義兩派分離管長別置ヲ許ス○同月眞宗專照寺派名公稱別立ヲ許ス○十二年四月内務省第二十二號達ヲ以テ眞言宗各部派分離管長別置ヲ廢シ一宗一管長ト定ム○十二年七月内務省第三十四號達ヲ以テ寺院進退ノ節許付書交付ヲ廢シ自今任職進退出願手續等ヲ定ム○同年十月内務省第七號達ヲ以テ年給二十歳未満ノ者ヲシテ教導職試補申付ノ節ハ許可ヲ受ケシム○十三年四月内務省第十六號ヲ以テ寺院任職進退等ノ處分方ヲ達ス○同年六月臨濟宗永源寺派公稱管長別置ヲ許ス○十五年一月内務省第七號ヲ以テ神官教導職試補ヲ廢ス○十七年三月内務省第十四號ヲ以テ教導職試補申付方ヲ達ス○同年八月第十九號布達ヲ以テ神佛教導職ヲ廢シ寺院

任職ヲ任免シ寺院ニ屬スル古文書什器等保管スルコトヲ管長ニ委任ス

○僧侶托鉢禁止ノ達ヲ廢ス十四年八月十五日 内務省布達第八號

明治五年^{十一月} 教部省第廿五號達僧侶托鉢禁止之儀相廢候條此旨相達候事

但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ

○托鉢免許方並托鉢者心得十四年八月十五日 内務省達書第三十八號府縣

今般戊第二號ヲ以佛道各管長へ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢禁止通末詳細取調該宗管長若クハ其地方取締へ通知スヘシ此旨相達候事(十九年五月内務省令第九號ヲ以テ(取調)ノ下(當省へ可申出)トアルヲ(該宗管長若クハ其地方取締へ通知スヘシ)ト改ム)

戊第二號 輪廓附

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

明治十四年八月十五日

内務卿松方正義代理

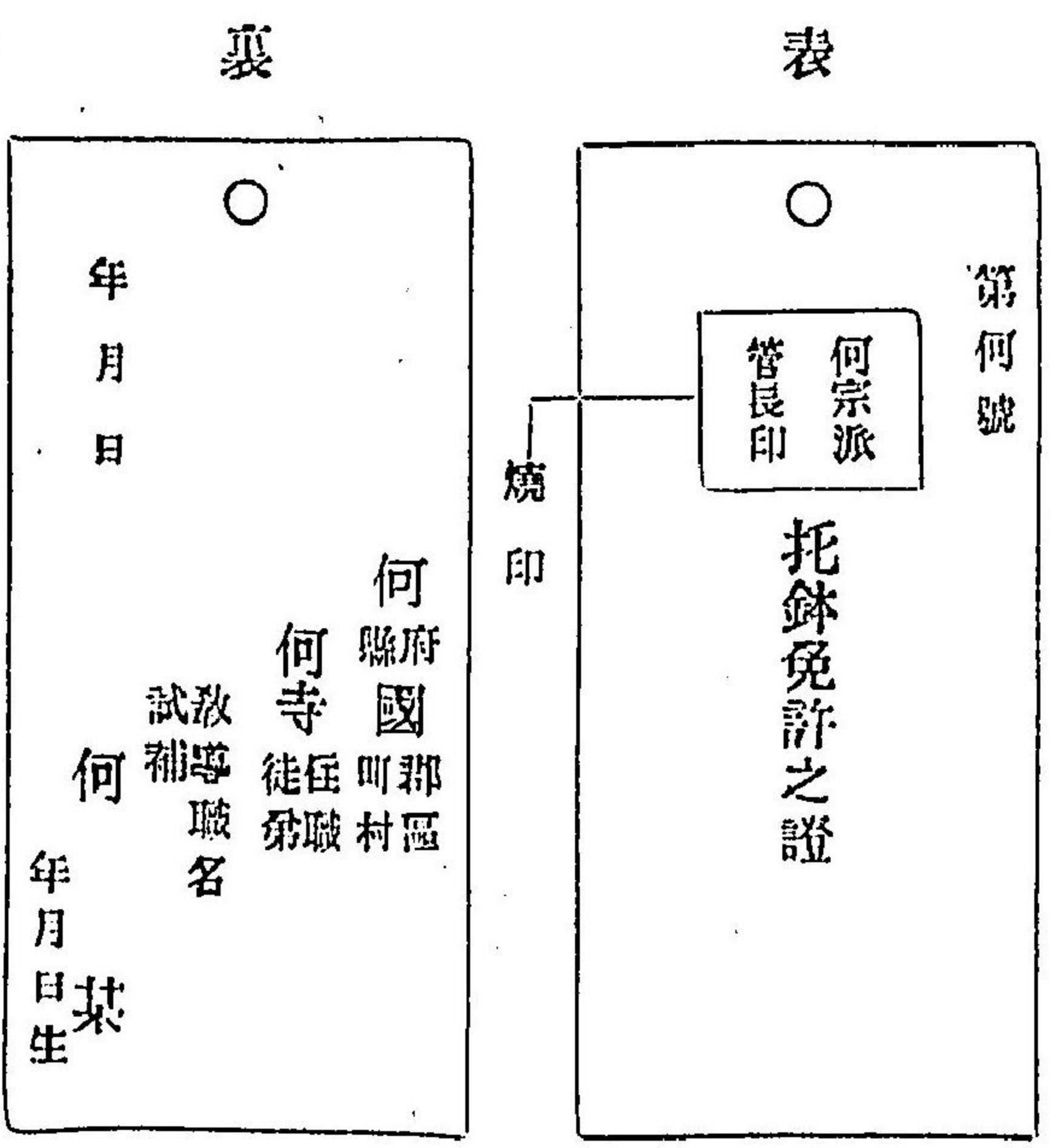
内務大輔土方久元

托鉢免許方并托鉢者心得

- 一 托鉢ヲ免許セントキハ左ノ離形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳へ通知シ東京ハ警視廳へモ通知スヘシ
- 一 托鉢ヲ行フハ午前七時ヨリ同十一時迄ヲ限リトス
- 但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
- 一 托鉢者ハ如法ノ行装ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請アルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ咄ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ取テ餘物ヲ乞フヲ許サス

一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公眾來往ノ便ヲ妨クヘカラス
 一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス
 標牌雛形
 木製

縱五寸 横二寸



●沿革要領

明治五年十一月敕部省第五號達ヲ以テ僧侶ノ托鉢ヲ禁ス○十四年八月内務省甲第八號布達ヲ以テ前令ヲ廢ス○十九年五月内務省令第九號ヲ以テ前令中ヲ改ム

○神社佛古來所傳ノ什物並寄附ノ諸器祠堂金等ノ類處分方

六年七月十七日 布告第二百四十九號

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリモ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已儀有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ教部省ヘ可申立候此旨布告候事

○社寺學校病院等ヘ寄附ノ土地建物等ノ件

九年四月十八日 布告第五十四號

社寺學校病院等ヘ寄附候土地建物其他物品等別段ノ契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○社寺ニ於テ金穀借入方

十年五月十六日 布告第四拾三號

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所除稅地ヲ外建物什器寶物古文書類等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私價ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其効ナキモノト爲スヘシ

此旨布告候事

○寺院什物帳調製方

六年三月五日
布告第八拾九號

千百七十

今般僧侶身代限規則被相定候ニ付テハ寺院所有ノ田園建造物諸器什檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用ニ必用ナル分並ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候テハ差支候條左ノ規則ニ從ヒ寄附帳什物帳相綴リ置可申候

一寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田園反別建造物坪數諸器物ノ質分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ

一什物帳ニハ用ニ必要ノ分並ニ寺寶ヲ區別シ記載スヘシ

一右二帳二部ツ、相綴リ檀家法類共兩人以上並ニ其地ノ戸長検査ノ上各姓名ヲ署シ之レニ調印シ一部ハ戸長役場ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シ置ク可シ

右之通布告候事

○社寺上地中内實賣買質地トナセシ者處分方

九年五月十二日
布告第六十六號

明治三年^{十二}社寺領現境内ヲ除クノ外上地ノ儀布告候處朱黑印除地上地ノ中内實ハ賣買又ハ質地ト相成候者モ有之哉ノ趣不都合ノ至ニ候得共此布告以前ニ係ルモノハ特別ノ詮議ヲ以其罪ヲ問ハヌ更ニ民有地トナシテ差支無之分ハ賣買地ハ買得者へ流質地ハ質取主へ其儘無代價ニテ下渡シ其民有地トナシ差支アルモノ并質地年限中ノ分ハ上地セシムヘク若シ此布告以後ニ係ルモノハ律ニ照シ處分スヘク候條此旨布告候事
(九年第八十三號布告ヲ字ヲ加ヘ(分ハ)下(請)返シ)ノ三字ヲ削ル

○社寺上地官林委託規則

二十四年四月八日
農商務省令第五號

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第三條ニ據リ社寺上地官林委託規則左ノ通之ヲ定ム

社寺上地官林委託規則

第一條 社寺ニ於テ上地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ願書ニ其ノ創立ノ年代由緒資格出願地ノ字名區域段別樹種別木數(竹ハ三寸同リ以上ノ數量)維持方法氏子檀徒信徒ノ概數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ圖面ヲ添ヘ神官住職及ヒ氏子檀徒總代ノハ信徒總代 三名以上連署シ寺院ハ管長ノ與書ヲ經テ所轄大林區署長ニ提出スヘシ

第二條 社寺上地官林ノ委託ハ此ノ規則中特ニ定メタル場合ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過シ尙ホ引續キ其ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 社寺ハ委託前他人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限内ニ係ルモノヲ除クノ外委託官林内ノ副產物(即チ樹實菌莖落枝落葉下草晚荷ノ類)ヲ無代價ニテ收得スルコトヲ得

第四條 社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林内ニ建造物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽植シ若クハ林地ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サス

第五條 社寺ハ風致其ノ他水源涵養土砂并止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林區署長ニ納付スヘシ

第六條 社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林内在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂并止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得

前項ニ據リ賣渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉賣シ若クハ讓與シタルトキハ其ノ賣渡代價ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第九類 第二章 社寺財產

千百七十一

第七條 社寺ハ其ノ委託官林保護ノ責ニ任シ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スヘシ
前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林内ニ竹木栽植ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ標杭ヲ建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林内ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第九條 社寺ニ於テ委託官林内ノ竹木ヲ斫伐シ副産物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘシ
第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲナサントスルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官任職及ヒ氏子檀徒若クハ信徒總代ノ連署ヲ要ス
第十二條 斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受クルニアラサレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス
但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノノ外掘採スルコトヲ得ス

第十三條 社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス
第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ速ニ所轄大林區署長ニ届出ヘシ
但第二第三第四及ヒ第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ノ検査ヲ受クヘシ

- 一 看守人ヲ置キ又ハ廢シタルトキ
 - 二 委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ
 - 三 道路電線耕地他家屋等ニ對スル障害木アリタルトキ
 - 四 林地ノ使用若クハ栽植ヲ終ハリタルトキ但竹木ノ栽植ヲナシタルトキハ其ノ栽植費取調書ヲ添付スヘシ
 - 五 竹木ヲ斫伐シ及ヒ運搬ヲ終ハリタルトキ
- 第十五條 左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

一 官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但此場合ニ於テハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其ノ栽植費ヲ賠償ス

二 此ノ規則ニ定メタル制限及ヒ條件ニ違背シタルトキ但社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス

第十六條 竹木及ヒ副産物ノ斫伐採取其ノ他林地使用ノ爲メ若クハ故意怠慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生シ又ハ生セントスルトキハ所轄大林區署長ハ其ノ斫伐採取使用ヲ停止若クハ禁止シ尚ホ其ノ委託ヲ解クコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ損害アルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任スヘシ

第十七條 社寺ニ於テ此規則ヲ履行スルニ因リテ生スル費用ハ社寺ノ負擔トス

○神社佛寺持添ノ田畑山林寄附金古文書類處分ニ付心得方 九年二月二日 敎部省達書第三號 府縣
神社佛寺共古來所傳ノ什物等處分ノ儀明治六年七月第百四拾九號公布ノ趣有之ニ付テハ持添ノ田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相違候事

○府縣社以下神社什物取締方 十年七月五日 內務省布達甲第十三號
府縣社以下社寺什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布達候事

一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細簿ニ記載シ尚他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

第一類 寶物古文書
第二類 祭具什器並持添之田畝附屬之建物等
右簿簿二部ツ、編製神官並氏子氏子無之向ハ總代二名以上尚該地之區戶長連署調印一部ハ區戶長役所へ一部ハ其社へ職メ置ヘシ

○社寺取扱概則 十一年九月九日 內務省達書第五拾七號 府縣
社寺取扱之儀左之通概則相定候條此旨相達候事

社寺取扱概則
第九類 第二章 社寺財產

第一條 社寺ノ創建ハ(民有地ニ建設スルモノ)神官任職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺法類トモ)連署
 戸長奥書ヲ以テ願出承継財産ノ目途且其地所建社寺ノ體(社ハ本殿拜殿寺ハ本堂廂惠)ヲ具フル者ニ限リ允許スルヲ
 得ヘシ再興復舊等總テ之ニ準ス(十三年ノ第二十八號省達ヲ以テ(社
 寺ノ體)ノ下註文十二字ヲ加フ)
 但別紙書式ニ倣ヒ其都度當省ヘ届出ヘシ
 第二條 同上移轉廢合並社寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其申由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ閉届毎月末取纏當省ヘ届出ヘ
 シ尤廢合社寺址地並建物等處分方ノ儀ハ從前ノ通
 但式内神社並文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺ノ向ハ前以テ當省社寺局ヘ照會ヲ經ヘシ
 第三條 郵内社堂並掛所道場引直及寺號公稱等ハ總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出承継目途并建物ノ體(堂宇ハ方六尺以上)
 ヲ具フルモノニ限リ閉届別紙書式ニ倣ヒ毎月末取纏當省ヘ可届出(同上(願出)ノ下註
 文共二十字ヲ加フ)
 第四條 前條々ノ外社寺例格ノ改定並社寺ニ關スル條件中例規ナキモノハ其都度當省ヘ伺出ヘシ
 (別紙略之)

○社寺什物取締方 十二年五月十九日 內務省達第二十二號府縣

社寺寶物古文書等之儀ハ各管廳ニ於テ取締相立厚ク保護可致等ニ有之就テハ各管内府縣社以下神社并寺院共所藏ノ寶物
 古器物古文書等別紙書式ニ照準取調目錄帳爲差出調査之上本年十月限取纏當省ヘ可届出此旨相達候事

別紙

書式

某(神社寺院)寶物古器物古文書目錄

一 緣起書

幾卷

撰者及ヒ筆者ノ姓名并ニ其年月ヲ記ス

一文書

幾通

百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノニテ文書ト稱スヘキ者ハ一々其目ヲ掲ケ撰者筆者年月寄附人并傳來ノ所由ヲ記
 ス以下扁額ニ至ルマデ
 記載方皆之ニ準ス

一 書畫或ハ繪卷物 幾幅 或ハ幾卷
 絹地紙地彩色墨畫等ノ別ヲ記シ繪詞等記載方都テ前ニ準ス
 一 寫本 或ハ寫經 幾本

一 扁額 格別貴重ナルモノハ行數紙數等ヲモ詳細ニ記載スヘシ 一面

一 棟札 寸法ヲモ記ス 一枚

一 鏡 年月及ヒ人名ヲ記ス 一面
 銘若クハ寸法 形 鑄文 重量 年月寄附人傳來ノ所由等ヲ記ス(已下記載方
 無銘)

一 鈴 一箇

一 劍 一口
 燒刃器具ノ地金模樣 銘アラ 等ヲモ記ス

一 古金 一枚

一 古錢 一枚

一 古印 一顆

一 印文 鈕 形等ヲモ記ス 一副

第九類 第二章 社寺財產

札威シ毛等ヲモ記ス

一琴

一笛

一管

此他古書籍百年以上若クハ名古法帖明朝摺以上武器文具樂器珠玉石劍等ニ至ル迄各部ヲ分ケ類ヲ推シ書式ニ照ラシテ記載スヘシ且其金銀銅器ニ係ルモノハ其重量等詳細ニ記センヲ要ス

右ノ通御座候也

年月日

右調査候處相違無之候也

年月日

○社寺文庫經藏儲書等取調差出方
十二年五月十九日
内務省達シ第二十三號府縣
各管内官社 大社古社并名山巨刹等ニ設置有之文庫經藏及ヒ儲書等別紙書式ニ照準取調書爲差出調査之上本年十月限取纏當省へ可届出此旨相達候事

何府管下	何國何郡何町	何神社何官堂宗	何派何寺院任職	職名	右神社氏子或ハ崇敬人寺	右院檀家信徒或ハ法類	右村(戶長)	何府印
姓	姓	姓	姓	姓	姓	姓	姓	姓
名	名	名	名	名	名	名	名	名
印	印	印	印	印	印	印	印	印

但神宮并官國幣社へ別紙第一號之通相違候條此旨爲心得相達候事

別紙

書式

何國何郡何町
官國幣社(府縣鄉村社又ハ無格社)
何宗何派
何々神社
何々寺院

何々文庫 或ハ何々經藏

稱號ナケレハ直チニ文庫書庫又ハ經藏ト書ス文庫并經藏等ナケレハ直チニ儲書ヲ記載ス

位置

設置ノ地境外ニシテ郡區町村ヲ異ニスレハ境外何郡何町ト書シ境内ナレハ本社又ハ本院境内ト記ス

幅員

暨幾間幾尺横幾間此坪幾坪幾合幾勺ト記ス

創立

年號月日及ヒ設立人ノ姓名履歴設立ノ原由等其他緊要ノ事情ヲ記載ス其後記ヲ失フモノハ設立年度及ヒ原由不詳ト書シ凡何年度ノ創立ニ係ル由ノ考案ヲ附ス

儲書

内國書

皇國ノ著述編輯ニ係ルモノヲ云漢籍ノ註疏佛經ノ解釋歐書ノ翻譯ト雖モ皇國人ノ註釋和解ニ係ルモノハ皆此部ニ收ム

第九類 第二章 社寺財產

千百七十八

幾部 此冊數幾本

幾部 此冊數幾本

幾種 又ハ幾枚

其書名人名年月等ヲ記ス(以下文書書畫寫經等内外) 種類多キ者ハ其類ヲ分チ何々幾卷何々幾枚ト記ス但シ本年七第二十二號古文書中ニ掲ケタルモノハ記載ニ及ハス以下準之

外國書 內國人ノ筆ニ係ル畫圖繪卷物書畫幅ノ類皆此部ニ收ム

漢籍佛經歐書其他一切外國ノ著述編輯ニ係ルモノハ皆此部ニ收ム

版本 內國出版ノモノト雖モ其著述編輯外國人ノ手ニ成ルモノ及ヒ法帖類等皆此部ニ收ム 幾部 此冊數幾本 幾部 此冊數幾本

內國人寫本 幾部幾本

外國人寫本 幾部幾本

古寫經ノ類皆此部ニ收ム

書畫 外國人ノ筆ニ係ル畫圖繪卷ノ類皆此部ニ收ム 幾種

總計

内外版本 幾部幾本

内外寫本 幾部幾本

内外書畫 幾種

内國古文書 幾種

右之通御座候也

年月日

官社ハ 何宮 神社 宮司 職名 姓 名 印
府縣社以下 何府 郡 職名 姓 名 印
神社寺院 何國 郡 何村 職名 姓 名 印
(寺院ハ) 何社 何官 何祠 堂 職名 姓 名 印
何宗派 職名 姓 名 印

右町(戶長)

右神社氏子或ハ崇敬人 總代 姓 名 印
右寺院檀家信徒或ハ法類 姓 名 印
姓 名 印

右調査候處相違無之候也
年 月 日

第九類 第二章 社寺財産

何 縣府 印
千百七十九

○社寺明細帳調製差出方 十二年六月廿八日

各管下神社寺院明細帳之儀最前進達ノ分取調同十二月限リ可差出此旨相達候事
但眞宗寺院明細帳ノ儀八十年當省乙第六十九號達之趣候處今般取調ニ付テハ各宗寺院同様取調差出スヘキ事
別紙

○神社明細帳書式

- 一 祭神
- 一 由緒
- 一 社殿間敷
- 一 境内坪數并地租
- 一 境内神社幾社
- 某神社
- 祭神
- 由緒
- 建物
- 一 境内某通拜所
- 由緒

何府管下何國何郡何町字何
社格何
某神社

- 建物
- 一 境内招魂社
- 由緒
- 建物
- 一 境内祖靈社
- 由緒
- 建物
- 共有人員
- 一 境外所有地
- 耕地段別
- 地價金額
- 山林段別
- 地價金額
- 宅地段別
- 地價金額
- 一 氏子戸數
- 一 管轄廳迄ノ距離里數
- 以上

何町字何
何町字何
何町字何

○寺院明細帳書式

第九類 第二章 社寺財産

何府管下何國何郡何町字何

千百八十二
總本山或八本寺又八某寺末
某 寺

何宗何派

- 一本尊
- 一由緒
- 一堂宇間數
- 一境內坪數并地種
- 一境內佛堂幾宇
- 某堂
- 本尊
- 由緒
- 建物
- 一境內庵室幾宇
- 某庵
- 本尊
- 由緒
- 建物
- 一境外所有地
- 耕地段別
- 地價金額
- 山林段別

何町字何

何町字何

- 地價金額
- 宅地段別
- 地價金額
- 一檀徒人員
- 一管轄廳迄ノ距離里數
- 以上

何町字何

○境外通拜所明細帳書式

何縣管下何國何郡何村何町字何
某神社通拜所

- 一由緒
- 一建物間數
- 一境內坪數并地種
- 一敷地坪數并地種
- 一信徒人員
- 以上

○境外招魂社明細帳書式

何縣管下何國何郡何村何町字何
招魂社

- 一由緒
 - 一建物
 - 一共有人員
- 第九類 第二章 社寺財產

何縣管下何國何郡何町何村何字何
祖 靈 社

以上

○境外祖靈社明細帳書式

- 一由緒
- 一建物間敷
- 一境内敷地坪數并地種
- 一共有人員

以上

明細帳取調方心得

- 一明細帳ハ神社寺院境外通拜所招魂社祖靈社ノ五種ニ分チ神社寺院ハ毎郡各冊ニ編製シ表紙ニ何國何郡何町何村何字何社何院何明細帳ト署記スニシテ他府縣ニ跨ル者ハ何郡ノ内ト記シ又一部一冊内ハ町村ヲ以テ次叙シ同町村内ノ神社ハ社格寺院ハ宗派ヲ以テ區別シ且冊首ニ町村名目錄ヲ附スヘシ境外通拜所以下ハ毎國各冊ニ編製シ表紙ノ署記并目錄ハ前ニ準スヘシ
- 一用紙ハ美濃十三行界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ
- 一但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トシ各紙ニ認ムヘシ
- 一神宮官國幣社并同境内神社ニ拘ハラズハ取調ニ及ハス
- 一山野路傍存置ノ神祠并累殿參拜ヲ許可セシ人民私邸内ノ神祠ハ并ニ一社トシ其神社境内へ移轉セシ者ハ境内神社ノ項下ニ記スヘシ
- 一通拜所招魂社祖靈社并寺院ノ別院支坊末庵等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調フヘシ
- 一但官祭招魂社并建物無之通拜所ハ記載ニ及ハス

- 一由緒ハ創立公稱廢合再興復舊移轉及ヒ社格等許可ノ年月并該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ
- 一社寺境内地ノ社寺名受ニ非ル者ハ名受人ノ姓名私有共有ノ別ヲ地種ノ下ニ登記スヘシ
- 一社寺境内ニ社堂外ノ建物ノ類アラハ社堂間敷ノ次ニ並ヘ舉クヘシ
- 一祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記シ境内通拜所等無之者ハ其項ヲ除クヘシ
- 一社寺ニ氏子檀徒無之向ハ信徒ノ類中ノ人員ヲ記スヘシ
- 一明細帳取調濟ノ後府縣限リ處分セシ事件ニシテ明細帳ヲ改正シ又ハ記入スヘキ者ハ毎月末取纏メ本省へ届出ヘシ
- 一但從前届出方ノ成規アル者ハ格別ナリトス尤向後新ニ明細帳ヲ出スモノハ總テ此書式ニ準スヘシ

十二年七月十四日
內務省達シ第三拾九號府縣

○社寺ノ什物並地所建物等ノ類抵當其他處分方

本年當省ニ第貳拾貳號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中へ記載ノ物品ハ明治十年第四拾三號公布之通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之儀テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應管廳へ申出サセ調査ノ上至ク寶物古文書ニアラサル分ニ限リ認可スヘシ此旨相達候事

但目錄帳へ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第貳百四十九號公布同九年敎部省第三號達書之通心得ヘシ

○社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願届等ニ連署セシメ且收入財產等取調方

各管内社寺總代之儀氏子檀家中ノ氏子檀家ナキ相應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戸長役場へ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財產ハ田畑山林ノ所得ハ勿論寶物祈禱雜儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ其共有ニ屬スヘキモノト其神官任職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事

但神宮官國幣社ハ非此限

○町村鎮座氏神氏子去就禁否處分方

十五年五月一日
內務省達シ第貳拾八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

第九類 第二章 社寺財產 千百八十五

各町村領座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之申社ノ氏子一部落舉テ社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲届出明細帳引直シノ儀當省へ可申出此旨相達候事

但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

○社寺伐木取扱概則 十五年八月二日 内務省達番外府縣

社寺境内樹木伐採之儀ハ明治六年第百三拾五號公布並八年第百七號公達九年當省並教部省第拾貳號達十二年當省乙第拾三號達之趣有之官有地ニ係ルモノハ當省エ伺出處分之等ニ候處近來修繕之爲メ多分之伐木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植ノ地ニ無之數百年來之古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願之節ハ不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査之上可伺出此旨爲心得示達候事 但縣限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社寺境内樹木ト雖モ本文之振合ヲ以取扱フヘシ

別紙

社寺境内伐木取扱概則

- 第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木目通寸則ニテ第一類トシ目通り登丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類トシ同登尺以上ヲ第四類トシ同登尺未滿ヲ第五類トス
- 第二條 第一類第二類之木ハ伐採ヲ許サス
- 第三條 第三類ハ總木數十分ノ一拾本ニ第四類ハ同十分之二拾本ニ以內伐採ヲ許スアルヘシ
- 第四條 第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生立ノ爲メ拔伐ノ外伐採ヲ許サハルモノトス
- 第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏之造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス 但必ス仕様書具申セシム

○寺院附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他財産ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要ス 十七年十月三十日 内務

省達シ第三十七號府縣

一 神佛教務所 教院教會所法務所 說教所 說教ノミハ國並宗派ニ分チ六月三十日十二月三十一日ノ理收半年毎ニ取調翌七月 一 月兩度ニ當省へ差出ス可シ (十八年七月内務省甲第二十三號ヲ以テ年兩度ニ差出ニ及ハス自今毎 一 祠宇並寺院創立再興從舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他實物古文書等財産ニ關スル諸願ハ寺院ハ本 管長ノ添書ヲ要ス可シ 寺法類連 右相達候事

○祠宇寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲナサシム 十七年十月三十日 内務省達シ第三拾八號府縣

別紙及第貳號ノ通神佛各管長へ相達候條第二項ノ件出願許可又ハ届出ノ分共月末取調メ當省へ可届出此旨相達候事

別紙及第貳號

一 教師僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分チ半年毎ニ取調翌一月七月兩度ニ當省へ届出ツ可シ (十八年七月内務省丁第貳號 自今十二月三十一日ノ現數ヲ取調翌 一 月三十一日限リ可差出旨ヲ達ス) (十八年七月内務省丁第貳號 一 月三十一日限リ可差出旨ヲ達ス)

但東京ノ教務所ニハ全國教師僧侶ノ姓名及各地方教務所說教所ノ所在等ヲ詳記セル帳簿ヲ備置クヘシ 一 教務所 教院教會所法務所 說教所 說教ノミ取設ハ從前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出其移轉廢合ハ届出ツ可シ 但教務所ニハ教師ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ

一 祠宇並寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長添書ス可シ 一 寺院任職進退ハ其都度地方廳へ届出ツヘシ 右相達候事

右相達候事

上卷正誤

三十二丁初行 褒章ハ褒章ノ誤
 五十八丁二行 府ニ縣會ノ議事ハ府縣會ノ議事ニノ誤
 六十丁十行 換起ハ喚起ノ誤
 六十六丁十四行 府其ハ其府ノ顛倒
 八十五丁十五行 妨ノハノ妨ノ顛倒
 百九十四丁初行 規則ハ通規ノ誤
 二百十四丁十七行 內務ノ上ハヲ脱ス
 全丁十八行 權限ノ上ハハ行
 二百五十四丁八行 被尉ハ披封ノ誤
 二百七十四丁八行 魚鳥ノ下市ヲ脱ス
 三百七十三行 官長ハ官廳ノ誤
 六百六十二丁二行 莞菁ハ莞菁ノ誤
 七百六十二丁九行 邦篤留母ハ那篤留母ノ誤
 七百六十三丁十一行 願證ハ願書ノ誤
 九百四十二丁八行 細則ハ規則ノ誤
 千一十一丁十四行 教科ハ教科ノ誤
 千二十五丁八行 毒藥ハ毒藥ノ誤
 千五十三丁十行 電信局ハ電信分局ノ誤
 千百九十八行 ○遞信省云々開會第二十號ハ重複

明治二十四年五月一日印刷并出版



著作兼
發行者

兵庫縣土族

長尾景彌

東京市芝區西久保
葺手町壹番地寄留

發行所

東京銀座四丁目

博聞本社

大坂備後町四丁目

博聞分社

千葉縣千葉町

博聞分社

福岡縣博多中島町

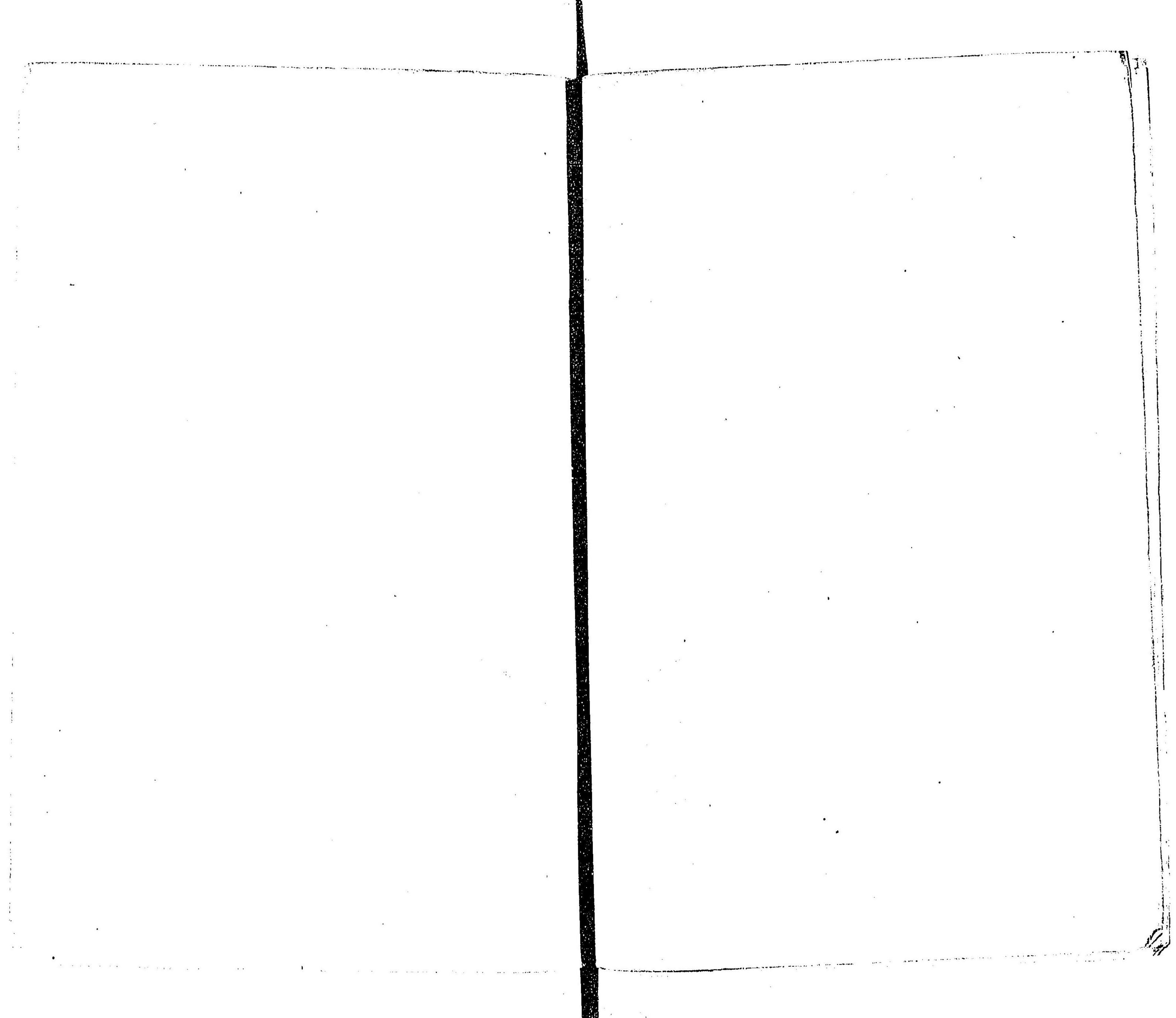
博聞分社

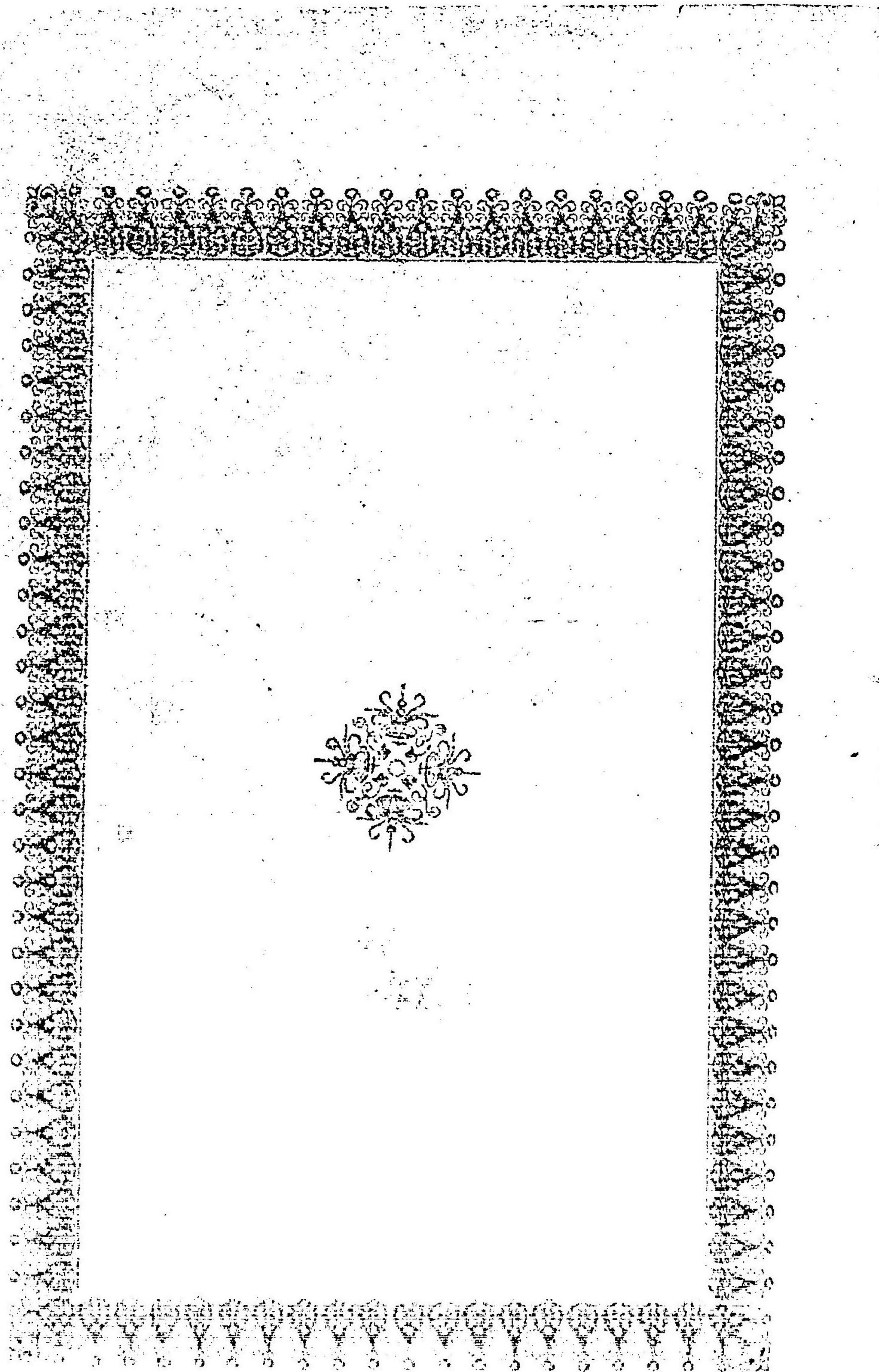
佐賀縣佐賀新馬場

博聞社代理店

兵庫縣龍野町

博聞社代理店





禁電子式複写

031073-001-5

CZ-5-023

日本規則全書

長尾 景弼 / 編

M24-27

BBC-0678

